

平成 2 8 年度第 1 回事務事業評価における総括

部 局 名	企画部	記入責任者	秋元 一正
評価について（現状と課題）			
<p>【事業の達成状況について（現状）】</p> <p>企画部 5 課では、平成 2 7 年度に「災害応急活動」「庁内共通事務」「部内共通事務」を除き、9 8 事業に取り組みました。結果、S 評価が 5 3 事業、A 評価が 9 事業、B 評価 1 7 事業、C 評価 1 7 事業、D 評価 1 事業、E 評価 1 事業でした。</p> <p>企画部の事業は、庁内はもちろん、庁外の関係機関等と調整を進めながら取り組むべきものが多いことが特徴です。そうした中で、事業の実施成果に着目すると、成果があがった事業は 6 2 事業、今後成果が見込める事業が 3 4 事業であったのは、それぞれが事業目的を認識しながら事務を進めた結果であると考えています。</p> <p>こうしたことから、D 評価及び E 評価が各 1 事業ありましたが、政策目標の達成に向けて、概ね順調に取り組みが進められたと評価しています。</p> <p>【達成できなかった要因についての分析（課題）】</p> <p>D 評価であった広域事業政策課の「地域活性化施策支援事業」については、（財）地域活性化センターの支援事業に 2 事業エントリーしたものの、不採択となったものです。今後ともこうした支援事業を活用できるよう、事業内容を精査しながら、積極的に取り組みを進めます。</p> <p>E 評価であった企画経営課の「PPP（公民連携手法）の推進」については、今後の方向性の検討は行ったものの、目標である新しい公共円卓会議は開催できませんでした。引き続き会議体のあり方について、関係団体と協議を進めていきます。</p>			
今後の方向性			
<p>【政策・施策目標の達成に向けた各事業の今後の方向性について】</p> <p>平成 2 7 年度に取り組んだ事業のうち、成果があがった事業及び成果が見込める事業は、9 6 事業（9 8. 0 %）でした。これらの事業については、必要な見直しを適宜行いながら、継続して取り組みを進めます。</p> <p>また、2 7 年度の取り組みの結果、「成果が見込めない」という評価に終わった 2 事業については、あくまでも単年度で見た場合の結果であると考えています。手法等の検証を行い、引き続き事業目的の達成に向けて取り組みを進めます。</p> <p>企画部では、働き方の見直しを進めていることから、事業の実施成果をしっかりと見極めながら、積極的に事業の見直しに取り組みます。</p>			